



嚥下造影検査



(VF : Video Fluoroscopic examination of swallowing)

○嚥下造影検査（VF）とは

水やお茶などを飲むとむせ込む、食べ物を飲み込むまでに時間が多くかかるといった症状を摂食嚥下障害と言います。

当院では、入院・入所中で摂食嚥下障害が疑われる、もしくはお持ちの方を対象に、嚥下造影検査（VF）を実施しております。



実際に患者様が食べたり飲んだりする様子をレントゲン装置で撮影し、飲み込みの状態を確認します。

検査結果を踏まえて、安全にお食事を食べていただけるよう支援していきます。必要な方には摂食嚥下リハビリテーションを実施致します。

○どのように検査するか

椅子や車椅子に座って頂き、レントゲン透視装置を用いて、造影剤（バリウム）を混ぜた食品を実際に食べて頂きます。首の位置、姿勢などを調整しながら行います。

またゼリーやミキサー食など、複数の異なる食物形態を用いて施行することもあります。



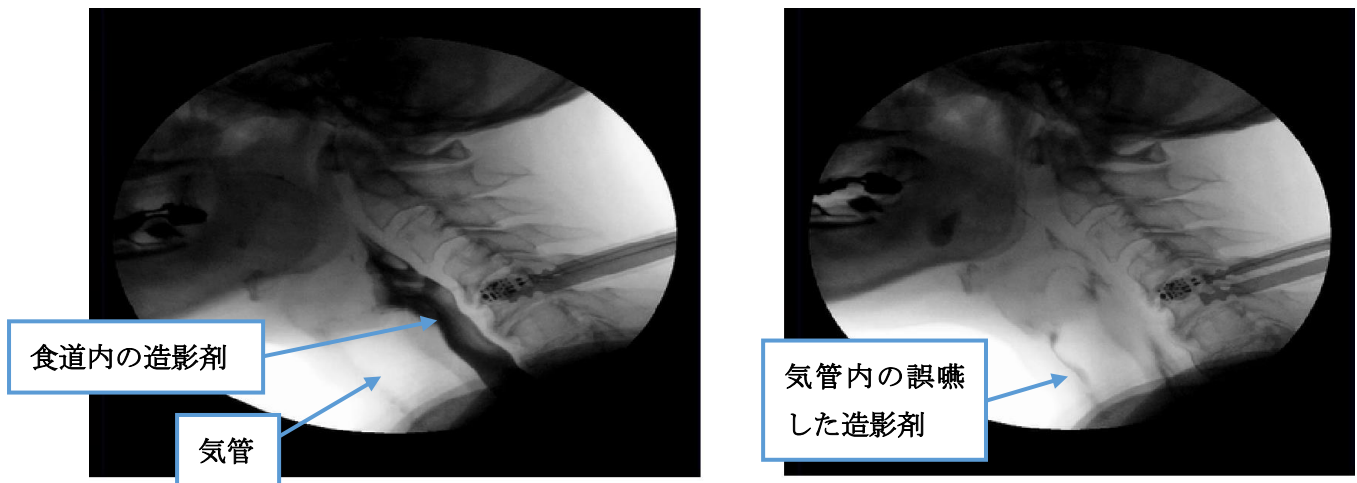
○嚥下造影検査で分かること

- 口の中の食べ物がしっかりと食道に運ばれているか？
⇒咀嚼や食道までの送り込みの状態を評価します。口腔内や喉に残留していないか確認します。
- 飲み込んだ食べ物が気管に入ったり、食道から戻ることがないか？
⇒誤嚥（食べ物が誤って気管に入ること）や逆流の有無を確認します。
- どうしたら安全に食べられるか？
⇒食べる際の体勢、一口の量、食品の種類・硬さ、食事の形態、トロミの必要性の有無・量などを検討します。

VF 実施時の透視画像

<正常>

<誤嚥している場合>



○嚥下造影検査の危険性

- 飲食物を使用して検査を行うため誤嚥の危険性を伴い、まれに窒息・誤嚥性肺炎が起こることがあります。当院ではそのような危険性を軽減する為、医師の立ち合いのもと誤嚥した場合にはすぐに吸引を行える環境下にて検査を行っています。
- レントゲンによる被ばくを伴いますが、被ばく量は胃のバリウム検査の半分程度です。造影剤使用の影響（アレルギー・便秘等）が出る可能性があります。

※ご興味のある方は、窓口（地域医療連携室）にご連絡ください。

TEL : 0 4 7 - 4 4 2 - 0 8 2 0

